

- 集落全体で課題となっているサル対策について、集落全体だけでなく、近隣集落と協力して対策を実施。
- 中山間地域等直接支払交付金等を効果的に活用し、サル対策を実施した「生きがい圃場」を整備し、集落内外の希望者で野菜を生産。
- 「生きがい圃場」を拠点とした地域内外との交流により集落機能を強化・交流人口の拡大。

集落協定の概要

R6協定面積：35.4ha
(うち田35.4ha)
R5交付金額：726万円
(うち加算措置0万円)
R5配分割合：個人配分80%
共同取組活動20%
協定参加者：農業者25人
農業生産注組織：1
水利組合：2、その他：2
構成集落数：1集落
開始年度：平成12年度
多面的機能支払との重複：無

【目指している将来像】

- ・安心して暮らせる入東谷地区の維持
- ・様々な世代が暮らし、自然と共生する地区の維持
- ・移住希望者から選ばれる地域づくり



【複数集落での検討会】

取組の背景・課題

- 上来伝集落は人口減少、高齢化が加速しており、このままでは集落の機能維持や営農の継続が不安な状況であった。
- サル、イノシシを中心とした鳥獣被害が発生しており、営農における農作物被害だけでなく、高齢者を中心とした地域住民の生きがいとなっている家庭菜園への被害も拡大していた。
- 複数協定での話し合いにより、近隣集落と協力した鳥獣被害対策が必要という意見で一致した。

課題解決に向けた取組内容

- ビレッジプランの取組を契機に複数協定での取り組みを行うため「入東谷地区を守る会」を設立。
- 広域でサル対策を展開するため、近隣集落との合同でサル対策研修や合同検討会を実施。
- 集落に電気柵を設置した「生きがい圃場」を整備。希望者が野菜を生産するだけでなく、地域内外での交流の場となっている。



【合同サル対策研修】

- 「生きがい圃場」でいも掘り交流会を開催したところ、地域外からの参加者もあり、集落の新たな交流の場となった。参加者からは「来年も参加したい」との声が聞かれ、継続開催する方針。
- ビレッジプラン地区内に「生きがい圃場」の取組が波及し、別の1集落でも新たに実施。
- 今後は、「生きがい圃場」を活用した地域内外での交流を発展させるとともに、「入東谷地区を守る会」と連携し、交流人口の拡大に関わる取組を積極的に行っていく。
- また、近隣集落と共同でのサルの追い払い活動を行い、サル対策の強化を進めていく。

取組のプロセス

①

複数協定での
課題の共有と
組織化

STEP1

・複数協定で話し合いを行い、拡大している鳥獣被害について、地域一丸となって対策を進めることで合意し、ビレッジプランに取り組む6集落で「入東谷地区を守る会」を設立。

②

合同事業の実施

STEP2

・近隣集落と合同でのサル対策研修等を実施。
・上来伝集落では、電気柵を設置した「生きがい圃場」も整備。

③

活動の幅の拡大

STEP3

・「生きがい圃場」を発展させ、さつまいもの収穫イベントを開催し、地域外との交流を開始。
・交流人口増加に向けた地域ぐるみでの活動意識が醸成された。

④

新しいテーマの模索

STEP4

・「入東谷地区を守る会」に参画する6集落で、中山間地域等直接支払交付金の6期対策等を活用した連携強化に向けた検討が開始。

活動写真等



【生きがい圃場での共同作業】

【いも掘りイベント交流会】

人や組織等の関係図

